

平成27年度事業報告(総務企画課)

事業名 中央区ぼうさいキャラバン

事業の概要・経緯

【概要】

体験型防災イベント「ぼうさいキャラバン」を校区ごとに開催し、子どもたちが防災・減災に役立つ行動や知識を、楽しみながら身につけることができるようにすることにより、防災意識の向上を図るもの。

なお開催にあたっては、PTA等に協力を依頼し、日頃地域活動への参加が少ない世代にも参加してもらえよう、校区の防災イベント等に合わせて実施した。

【経緯】

1 白山校区(青少協主催の「防災キャンプ」の一部として実施)

- ・日 時 平成27年10月11日(日)
- ・場 所 白山小学校体育館 約50名が参加
- ・内 容 サバイバル飯炊き(空き缶等身の回りにあるものを使っての飯炊き)
見る修行・聴く修行・災害時の心構えなど

2 砂取校区(校区防災訓練の一部として実施)

- ・日 時 平成27年10月18日(日)
- ・場 所 砂取小学校 約300名が参加
- ・内 容 煙から逃げるの巻、非常時の知恵など

3 白川校区(校区もちつき大会の一部として実施)

- ・日 時 平成28年1月17日(日)
- ・場 所 白川小学校 約200名が参加
- ・内 容 サバイバル飯炊き

事業の成果・反響

【反響】

- ・子どもたちが興味をもって参加でき、実践的なイベントとなった。また、親子での参加も多く、日頃地域活動への参加が少ない世代の参加にもつながった。
- ・初めて防災訓練を実施した校区においても、一部を担当したりアドバイスをしたりすることによって、より充実した防災訓練とすることができた。

サバイバル飯炊き



ビールの缶2本と牛乳パックを利用して米が炊けるメカニズムを体験。この体験では米の炊き方だけではなく、身の回りの物を活用することで問題の解決につながるということを学んでもらった。

見る修行・聴く修行・災害時の対応



密着した3人の後ろでカメラ等を動かし、誰が持っているかを当てる修行を実施。障害物に阻まれた際に、いかに目的の物が見えにくいかを体感してもらった。また、3人が同時に言葉を発し、それを当ててもらう修行を実施。災害時にサイレンや屋外放送が聞きづらい状況になることを体感してもらった。その後、校内からどろ水を集めてきて、それをペットボトルの中に入れた身の回りのものでろ過することを実践。さらに、校内地図を使って消火器等の場所を確認してもらった。

非常時の知恵コーナー



災害時、当たり前にある備品がない場合、身の回りにあるもので代用する知恵をつけるコーナー。新聞紙を使ってスリッパを作ったり、レジ袋を活用しておむつや包帯代わりにしたり、シーチキンを使ってランプにしたりする体験をしてもらった。非常用防災バッグを紹介し、自分自身で必要なものを考え、揃える必要性を伝えた。